

第3期における教育及び研究に関する自己点検・評価の基本方針

平成29年2月24日
教育・研究評価室

大学の教育・研究は、大学が自らの責任において質保証を行っていく必要がある。そのため、教職員が大学の目的・目標を共有し、自己点検・評価を目的・目標達成に向けた教学マネジメント体制として効果的に機能させることが重要である。併せて、大学における自己点検・評価活動の充実・深化は、社会に対する説明責任を果たすうえで、極めて大きな意味をもつ。

本方針においては、教育・研究の自己点検・評価の指針となるべき事項を、以下2点のとおり定める。

- ・ 教育に関して、教員養成カリキュラム及び教育プログラムの評価、教職協働を実現するための学内組織の評価、PDCA サイクルによる実施体制についての明確な観点と方法を策定する。
- ・ 研究に関して、研究活動の状況の評価、ステークホルダーのニーズを踏まえた研究の質の評価、連携・協働を観点にした研究の実施体制の評価についての明確な観点と方法を策定する。

以上を踏まえ、別紙に掲げる観点と方法に基づき、平成29年度以降毎年度、教育及び研究に関する自己点検・評価を実施する。

なお、評定を行うに当たっては、2段階評価を行う。

○達成状況の水準を示す評定

期待される水準にある
期待される水準に照らして、十分に応えられていない

第3期における教育及び研究に関する自己点検・評価の基本方針 別紙

区分	評価項目 (第3期中期目標 ・中期計画)	評価観点	評価方法	評価指標 (丸数字は指標例)
教育	教員養成カリキュラム及び教育プログラムの評価	組織体制	1 社会的要請等へ対応した組織やプログラム・コース等の設置・見直し, 多様な学問分野や学際的な教育を可能とする体制などの組織体制の工夫とその効果。	(1)現代の教育課題の解決に対応した教育体制が構築できている。 ①教育の質保証をより確かなものにするためのカリキュラムの検証と改善 ②多様な認定プログラム及び教職実践プログラム ③学校教員養成プログラム, 遠隔教育プログラムの取組 (2)学生からの意見・要望をカリキュラム等に反映する仕組みが構築できている。 ①学生による授業評価を基にした「学生による授業評価専門部会」のカリキュラム等の検証 ②学内委員から構成される「教育・研究評価委員会」による教育の質向上のための自己点検・評価, アクションシートによる改善点の提言 ③教育等に関するアンケート(卒業生, 修了生)を基にした「FD委員会」, 「教職大学院自己点検委員会」, 「総務委員会」での検討 (3)学外からの意見・要望をカリキュラム等に反映する仕組みが構築できている。 ①学外の有識者や教育関係者から構成される「外部評価委員会」による教育の質向上のための自己点検・評価, アクションシートによる改善点の提言 ②学外の有識者や教育関係者から構成される「教員養成等推進会議」による意見・要望の徴収 ③教育等に関するアンケート(教育委員会, 各学校等)を基にした「FD委員会」, 「教職大学院自己点検・評価委員会」, 「総務委員会」での検討
		カリキュラムの体系的性・教育改善の取組	2 学位課程ごとに養成する能力を踏まえて, 授業科目が連携し関連し合うなど体系的に教育が展開される工夫。あるいは, 学部・大学院を一貫とした教育課程を構築している場合には, その体系的構築の工夫。 学内外の資金を活用した教育改革や改善を重点的に行っている場合には, その取組と効果。	(1)大学の教育目的に沿った体系的なカリキュラムが編成できている。 ①教員養成コア・カリキュラム(学士課程) ②教員養成コア・カリキュラム(修士課程における実践型カリキュラム) ③カリキュラムマップ (2)学生が大学で学んだ学問を社会での実践に繋げることができる力として獲得できるようカリキュラムが工夫できている。 ①学修キャリアノートを利用した, 学生による学習内容と自己の資質能力との関係分析(自己省察) ②教育等に関するアンケート(卒業生, 修了生)(教育委員会, 各学校等) (3)カリキュラムを分析・評価する仕組みが構築できている。 ①「FD委員会」(公開授業) ②「学生による授業評価専門部会」 ③「教育・研究評価委員会」 ④「外部評価委員会」 (4)カリキュラムの分析・評価結果を組織全体で共有する仕組みが構築できている。 ①「FD委員会」(WS) ②「全学教職員説明会」 (5)カリキュラムの分析・評価結果を教育の質の改善に生かす仕組みが構築できている。 ①鳴門教育大学の評価システム

第3期における教育及び研究に関する自己点検・評価の基本方針 別紙

区分	評価項目 (第3期中期目標 ・中期計画)	評価観点	評価方法	評価指標 (丸数字は指標例)
		教育改革課題への対応・教育改善の取組 (特に教員養成・教師教育の全国モデルとなる教育の創出)	3 近年の教育改革課題に対応した教員養成課程の充実。学内外の資金を活用した教育改革や改善を重点的に行っている場合には、その取組と効果。	(1)近年の教育改革課題に対応した教育内容が充実できている。 ①特別支援教育 ②小学校英語教育 ③ICTの活用(教育) ④生徒指導, 学校経営や学級経営を行う力の育成 ⑤各センターの取組(小学校英語教育センター, 予防教育科学センター, 生徒指導センター) ⑥小中一貫教育 (2)学内外の資金を活用した教育改革ができています。 ①学長戦略経費による予算の重点的配分 ②機能強化経費 ③鳴門教育大学基金
		地域の活性化に貢献する教育	4 大学の地域貢献活動の目的を達成するためにふさわしい計画や方針が定められ、それに基づいた適切な実施、活動の成果(参加者等の満足度等から判断)、改善のための取組が行われているか。 高等学校と大学との連携を通じた教育については、その状況や工夫。たとえば、高等学校関係者との協議や連携による教育の実施、高等学校生徒への教育の提供など。	(1)大学の理念, 特色・強みを基にして地域貢献活動が充実できている。 ①公開講座 ②免許更新講習や資格関係の講座 ③各種の研修やセミナーの開設等の正規課程の学生以外への教育サービス ④図書館開放のような学習機会の提供 ⑤鳴門市学園都市構想の推進 ⑥県及び市教育委員会への講師派遣等協力 ⑦免許更新講習 (2)地域貢献活動を分析・評価する仕組みが構築できている。 ①教員の自己目標・評価 ②専修・コース等の自己目標・評価 ③「教育・研究評価委員会」 ④「外部評価委員会」 (3)地域貢献活動の分析・評価結果を教育の質の改善に生かす仕組みが構築できている。 ①鳴門教育大学の評価システム
		教育の国際化の状況	5 大学の教育の国際化の目的を達成するためにふさわしい計画や方針が定められ、それに基づいた適切な実施、活動の成果(参加者等の満足度等から判断)、改善のための取組が行われているか。	(1)国際的な教育プログラム及び教育環境の構築ができています。 ①外国語による授業実施・学位論文作成 ②短期留学・超短期留学プログラムの実施 ③国際通用性の高い教育課程の編成・実施 ④教員教育国際協力センターの取組 ⑤海外での教育研究活動実績等を有する教員の配置 ⑥外国語ができる職員の配置等 (2)構築した国際的な教育プログラムの実施及び教育環境の活用ができています。 ①正規留学生・短期留学生・超短期留学生・研修生／実績 ②指導状況(学修・生活・就職支援) ③受入促進のための取組 (3)国内学生の海外派遣ができています。 ①短期海外派遣学生・超短期海外派遣学生／実績 ②指導状況(学修・生活支援) ③海外派遣促進のための取組 (4)本学学生の国際交流ボランティア(大学主催行事への参加, 留学生等の生活サポート)ができています。 ①グローバルチューター登録促進 ②グローバルチューター登録学生数／活動実績

第3期における教育及び研究に関する自己点検・評価の基本方針 別紙

区分	評価項目 (第3期中期目標 ・中期計画)	評価観点	評価方法	評価指標 (丸数字は指標例)
	教職協働を実現するための学内組織の評価	教育支援組織の設置, 施設設備の運営等	6 教育支援を行う組織の設置や教育に必要な施設設備の運営の工夫, 事務職員の高度化とその効果。	(1)大学の教育目標を達成できる教育組織の編成ができています。 ①「教育研究評議会」 ②「教授会」 ③「学部教務委員会」 ④「大学院教務委員会」 (2)大学の教育目標を達成するための教育支援体制が設置できています。 ①教育実習等の実地教育の企画・実施の支援 ②学校や地域との連携支援 (3)カリキュラムを実施するために必要な教育環境が整備できています。 ①教育機器の効果的な設置 ②実技教育支援を行うセンターや室の設置 ③コア・ステーションの設置及び機能的な運用体制の構築 ④ラーニングコモンズ, 模擬教室の設置 (4)教職員の職能の向上に係る取組ができています。 ①FD・SD活動 ②事務職員の企画力・コミュニケーション力・語学力の向上
	PDCAサイクルによる実施体制の評価	3ポリシーの実質化, 教学マネジメントへの反映	7 3ポリシーは一体的な内容になっているか。これらを踏まえて, カリキュラム等に実質的に反映されているか。	(1)大学の理念, 特色・強みを基にしたAP, CP, DPが一体化できています。 ①学修キャリアノートとカリキュラム・ガイドブックを連動させた「学生による教育実践力の自己開発・評価システム」を利用した, 学生による学習内容と自己の資質能力との関係分析 ②教育等に関するアンケート(卒業生, 修了生)(教育委員会, 各学校等) (2)各教員は大学が掲げるAP, CP, DPに則した授業を実施できています。 ①学修キャリアノートやカリキュラム・ガイドブックによる個々の学生の学修成果の把握・評価 ②シラバスを基にした学生による授業評価 (3)カリキュラムを実施結果に対する評価・改善システムが構築できています。 ①学生アンケートを基にした「学生による授業評価専門部会」のカリキュラム等の検証 ②学内委員から構成される「教育・研究評価委員会」による教育の質向上のための自己点検・評価, アクシオンシートによる改善点の提言
		FD	8 教員の教育力向上やキャリア開発とその効果。	(1)近年の教育改革に寄与する資質能力開発ができています。 ①主体的な課題解決型学習(アクティブ・ラーニング)の手法を取り入れた授業 ②FD ③教育改革に関連した講演会 ④シンポジウムによる発表

第3期における教育及び研究に関する自己点検・評価の基本方針 別紙

区分	評価項目 (第3期中期目標 ・中期計画)	評価観点	評価方法	評価指標 (丸数字は指標例)
研究	研究活動の状況 の評価	研究資金の状況, 基盤的資金の配 分等研究への支 援	9 大学の研究目的や特性等を 踏まえた研究資金の分析。 継続した研究活動を支援する ための経費や研究時間の確 保の方策や, 研究費申請支 援の方策などでの工夫と実 績。 若手研究者の研究環境や各 種の育成・支援方策などの取 組。 成果の最大化や多様な視点・ 着眼点の確保のための取 組。	(1)教員の研究と大学の理念, 特色・強みとの関連を分 析・評価する仕組みができています。 ①業績評価申告票(業績目録) (2)大学教員が自己の研究活動と大学の理念, 特色・ 強み等の関わりについて分析・評価する機会がある。 ①各教員の自己評価 (3)競争的研究資金への応募状況を分析・評価する機 能がある。 ①科研費(申請数, 採択件数, 採択額) (4)大学の理念, 特色・強みを強化する研究を支援する 仕組みが構築できている。 ①学長戦略経費による予算の重点的配分 ②機能強化経費 ③鳴門教育大学基金 ④優れた若手研究者, 女性研究者, 外国人研究者の 研究代表者としての積極的な登用
	ステークホルダー のニーズを踏まえ た研究の質の評 価	学部・研究科を代 表する優秀な研 究業績 教員養成・教師教 育の全国モデル となる研究の創 出	10 当該分野で優れた研究の一 つであると認められ, 関連分 野において重要な影響をもた らしている「優秀な水準」の研 究が推進されている状況や実 績。 学際・融合領域・領域間連携 研究, 国際連携等の横断的 取組やハイリスク研究への取 組。 知の探求のみならず社会 ニーズに対応した知の活用を 促すために, 成果の受け渡し や実用化など社会実装に至 る取組。	(1)教員の研究と大学の理念, 特色・強みとの関連から 「優秀な水準」と評価できる研究ができています。 ①研究成果に基づく受賞(学術賞, 学会賞など) ②学術誌や専門書での書評・紹介のうち質の高さが 評価されたもの ③新聞, 一般雑誌, テレビでの書評・紹介のうち質の 高さが評価されたもの ④国際的に評価の高い学術雑誌への掲載 ⑤著名な叢書の一つとしての出版 ⑥書籍の海外における翻訳 ⑦招待講演, 基調講演, 招待論文等 ⑧論文の被引用数 ⑨新たな共同研究や共同事業の進展 ⑩研究活動のための競争的資金 ⑪小中高校における教科書の執筆 ⑫書籍の出版部数, 教科書としての利用状況 ⑬公演・発表などでの選定。来場者数 ⑭科学館・博物館等と連携した教育イベント (2)特に本学が特色や強みを持っている教員養成・教師 教育の全国モデルとなる研究の推進ができています。 ①生徒指導及び予防教育に関する実践的研究 ②教科内容学に基づく教科専門科目の内容構成に 関する研究 ③小学校英語教育のカリキュラム開発と指導法の研 究

第3期における教育及び研究に関する自己点検・評価の基本方針 別紙

区分	評価項目 (第3期中期目標 ・中期計画)	評価観点	評価方法	評価指標 (丸数字は指標例)
	連携・協働を観点にした研究の実施体制の評価	<p>実践研究の推進</p> <p>連携・協働したフィールドにおける具体的効果</p> <p>地域の活性化に貢献する研究</p>	<p>11 大学や学部・研究科等の特色を活かし、研究教育委員会、学校、社会教育施設等との連携・協働に基づく、教育行政や教育現場での実践につながる研究の推進。理論に裏打ちされた教育実践に係る研究の推進。</p> <p>教育系の学部・研究科が対象とするフィールド(教育現場や社会教育施設等)と連携・協働した研究活動などによって得られた社会における具体的な成果の状況。</p> <p>地域の活性化に貢献する研究(授業改善, 学校経営, 地域教育への効果)。</p>	<p>(1)大学の理念, 特色・強みから社会が大学に期待する研究, 要請する研究ができています。</p> <p>①学生や現職教員への研究成果の還元</p> <p>②理論と実践の往還による実践的な研究</p> <p>③研究成果の普及と評価(学力・体力の向上, 不登校児童生徒の減少, 地域活性化などへの影響, 第三者評価)</p> <p>④教員の自己評価</p>